

令和5年2月定例会の結果

1 請願書 2 資料（請願文書表）

1 請願書

請願番号	件名	結果
請願第1号	清水庵原球場のプロ野球本拠地化を推進する決議を求める請願書	採択
請願第2号	清水庵原球場のプロ野球本拠地化を推進する決議を求める請願書	採択
請願第3号	静岡市海洋・地球総合ミュージアム計画に対する請願書	不採択

2 資料（請願文書表）

請願第1号

清水庵原球場のプロ野球本拠地化を推進する決議を求める請願書

請願者 静岡市清水区
清水区自治会連合会 会長 田宮文雄

静岡市清水区
庵原地区連合自治会 会長 山梨滋巳

紹介議員 鈴木和彦 白鳥 実 山本彰彦 後藤哲朗 内田隆典
松谷 清 天野正剛

【請願趣旨・理由】

令和4年11月に、一般社団法人日本野球機構（NPB）が「ファームリーグの2024シーズン拡大に向け、来春に参加2球団を公募する」との方針を打ち出しました。同年12月には、有志企業ハヤテグループが「静岡を本拠地に2024年春のプロ野球参入を目指す」との意向を表明し、また、静岡市長も「ハヤテグループのファームリーグ参加が実現できるよう、清水庵原球場の本拠地化を積極的に検討する」との意向を定例会見で表明しています。

私達市民は、サッカー・野球等のスポーツに日々親しみ、清水エスパルスをはじめとしたホームタウンチームを地域一丸で応援・支援する文化が根付いています。その静岡市において、新たにプロ野球球団が創設されれば、様々な効果が創出されるものと期待します。

- ①市民生活文化の向上（日々の楽しさ・活力、人生の生きがい、子どもたちの夢の創出）
- ②交流人口の増加に伴う、関連産業の振興（商業・飲食・宿泊・交通）や雇用の創出
- ③スポーツの振興（児童の健全育成、高齢者の健康増進にも寄与）
- ④清水区、特に庵原地区の活性化（来訪者・店舗等の増加に伴う賑わい創出・生活利便性向上）等

他方、清水庵原球場が本拠地化されれば、新たな地域課題・影響（周辺の交通問題や騒音、市民の施設利用減少等）が懸念されますので、新球団には、これらの課題・影響への十分な配慮・対応を行うことも求められると考えます。

以上を総合的に勘案して、私達請願者は、静岡市議会に対し、この度のNPB及びハヤテグループの意向表明を千載一遇の機会と捉え、市民が清水庵原球場のプロ野球本拠地化

に伴う効果を最大限に享受し、延いては静岡市の持続的発展が図られるよう、当該本拠地化を市民一丸で推進することを表明するための決議を行うことを請願します。

【請願項目】

- 1 清水庵原球場のプロ野球本拠地化を推進する決議を行うこと。

請願第2号

清水庵原球場のプロ野球本拠地化を推進する決議を求める請願書

請願者 静岡市清水区
静岡県野球連盟 清水支部 支部長 柏原英二

静岡市葵区
静岡県野球連盟 静岡支部 支部長 浅野 孝

紹介議員 鈴木和彦 遠藤裕孝 繁田和三 畑田 響

【請願趣旨・理由】

我がまち静岡市は古くから「野球王国」と称され、多くの市民が野球をプレー・観戦し、野球を通じて人生の楽しみ・豊かさを享受しています。一方、競技人口の減少等、地元野球を取り巻く状況は大変厳しく、地域の野球振興を図る取り組みが求められています。その中で静岡市は、野球を地域資源と捉え、野球を生かしたまちづくりを推進し、その一環として、地元プロ野球球団創設構想も掲げられています。

野球界においては、大きな変革が起こりつつあります。昨年11月に、プロ野球オーナー会議の議長が、野球界のすそのを広げるため、プロ野球12球団のフランチャイズ以外の府県を対象としたファームリーグ拡大構想を公表しました。そして、当該構想を検討するきっかけとなったのが、東京都内の有志企業ハヤテインベストメントが、静岡市を本拠地とした二軍チームの創設を申し入れたことであった、と説明しています。

プロ野球は、国民的文化財として多くの人々を魅了し、国内プロスポーツ屈指の集客・注目度を誇ります。そのプロ野球の新球団が静岡市に創設されれば、地域の野球振興（競技人口の増加、競技レベルの向上、野球少年少女の夢の創出、球場施設の改善等）が図られ、更には、市民の生活文化向上や地域経済活性化等の効果も見込まれることから、地元野球団体の利用確保に十分な配慮・対応が為された上で、清水庵原球場のプロ野球本拠地化が推進されることを期待します。

よって、私達静岡県野球連盟清水支部及び静岡支部は、清水庵原球場のプロ野球本拠地化を契機とした地元野球振興等の効果発現に向け、静岡市議会が、当該本拠地化の推進を表明するための決議を行うことを請願します。

【請願項目】

- 1 清水庵原球場のプロ野球本拠地化を推進する決議を行うこと。

請願第3号

静岡市海洋・地球総合ミュージアム計画に対する請願書

請願者 静岡市清水区
清水港の海洋文化施設（水族館を含む）を考える会
高木 徹

紹介議員 内田隆典 杉本 護 市川—正（令和5年2月24日紹介を取消し）
寺尾 昭 松谷 清

【請願趣旨】

現在進められています「静岡市海洋・地球総合ミュージアム」計画について、「清水港の海洋文化施設（水族館を含む）を考える会」として田辺市長宛てに「要望書」を提出してきました。

総事業費約240億円、市税投入は約170億円になる水族館を含む「海洋文化施設」の事業内容は、静岡合併後最大のプロジェクトにも拘らず、多くの市民は昨年11月25日の「市長定例記者会見」で知り、驚きと不安を感じています。

中でも、15年間の入館者数は延べ681万人、年平均すると45万4千人の入館者を想定しており、入館者数が想定を下回り赤字運営になった場合には更なる市税投入も考えているとする事業に対し、大きな疑問をもっています。

静岡市は昨年9月の15号台風により各地で甚大な被害を受けました。地域によっては、今だに台風被害の爪痕が残されており、これから雨期を迎えることへの不安が解消できていません。市民は、災害に強い、安心安全なまちづくりに予算を優先することを強く求めています。

一方で、電気代・ガス代等をはじめ異常とも言える物価高騰や、繰り返すコロナ禍の下で、多くの市民は生活の不安を抱えています。莫大な市民の税金を投入し、黒字運営の見込みも不明な大型ハコモノ事業を優先する前に、暮らし応援の市政を望む声が強く出されています。今ほど、市政が「住民の福祉の増進を図ること」（地方自治法）を最優先にすることが求められているときはありません。

このような時期に赤字運営が想定される「海洋・地球総合ミュージアム施設」計画はなぜなのか、財源構成や将来的な財政負担なども含め、必要性について改めて市長への面談を求めましたが断られました。

私たちは、市民への丁寧な説明がないまま事業を進めることには反対です。

よって、下記の請願を行います。

記

・赤字が想定される「静岡市海洋・地球総合ミュージアム」計画は一旦白紙に戻し、市民への丁寧な説明と、広く市民から意見聴取を行い再検討すること。